

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 工業・商業系列等を持つ総合学科として、多様な進路実現を可能にし、生徒が自身の未来に期待を持って進路実現できる学校、地域・保護者から厚く信頼される学校をめざす。
1. 「東総で夢の実現」～「今まで」よりも「これから」～をキーワードとしてキャリア教育・職業教育を力強く推進する学校。
 2. 「基礎的・基本的な知識・技能の習得と主体的な活用」を目標に授業で鍛える学校。
 3. 学校・家庭・地域等と連携し、多様な他者との共有を図り、生徒一人ひとりを大切に、「ともに学び、ともに育つ」教育活動を展開する学校。
 4. 「目標達成に向け意欲的に取組む学校運営体制」を確立し、地域に信頼される開かれた学校づくりを進める。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現
 - (1) 総合学科の特長を生かした系列の編成と自主性・自立性を育成する実業教育・キャリア教育を推進し、3年間の学びで総合的な学力を育てる。
 - ア、3年間を通したキャリア教育を計画的に進め、生徒の自己実現を支援する。
 - イ、外部人材・外部組織の積極的な活用やインターンシップ及びボランティア活動を充実させる。
 - ウ、四年制大学の総合型選抜等・学校推薦型選抜・一般選抜を視野に入れ、進学指導を充実させる。
 - *進路実現については、進路未決定率を引き下げ、毎年0％を維持する。(R3：0.5％、R4：0.9％、R5：0.0％)
 - 四年制大学進学者数を引き上げ、令和8年度には60人以上をめざす。(R3：45名、R4：56名、R5：59名)
 - *インターンシップ・学外ボランティア活動等の参加者数を70名以上維持する(R5：87名)
 - (2) 学ぶ姿勢を確立し、基礎・基本の習得を中心に「確かな学力」の育成に努めるとともに、その主体的な活用をめざす。
 - ア、教育産業を活用し、基礎学力の定着を図る。
 - イ、SDGsの視点を踏まえて、総合学科の特徴を活用した探究活動の推進を図ると共に、グループ学習を充実させる。
 - ウ、1人1台端末を活用し、一斉授業、個別学習及び共同学習の教育実践を進める。
 - (3) 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現のための「魅力ある授業づくり」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
 - ア、学力向上プロジェクトチーム(GPT)を中心に、本校のめざす授業について考察し、教員相互の授業見学の機会を促進させる。
 - *学校教育自己診断の「学習指導に関する」項目の生徒評価を、75％以上を維持する。(R3：74.3％、R4：81.3％、R5：82.9％)
 - イ、資格取得を系列・教科の学習の1つの目標とすることで、将来を見通した学力を育成し進路実現につなげる。
 - 資格取得プロジェクトチーム(SPT)を中心に、多様な資格の情報を提供し資格取得のための講習や補講を行う。
- 2 社会とつながる力の育成
 - ア、あいさつ、服装、遅刻、清掃などの指導に全教員で取り組み、基本的生活習慣を確立させ、規範意識を育む。
 - イ、体育祭・文化祭等の行事を通して、クラス活動や各種委員会活動で生徒会活動の活性化をはかる。
 - ウ、部活動活性化プロジェクトチーム(BPT)を中心に、部活動の活性化をはかり、地域行事・学校説明会・オープンスクール等でのボランティア活動の機会を増やし、生徒のより一層の活性化をはかる。
 - *令和8年度までの3年間、引き続き中退率を1.0％以下にする。(R3：0.3％、R4：0.9％、R5：1.2％)
 - *部活動加入率を増やし、令和8年度には50％にする。(R3：46.5％、R4：47.1％、R5：38.9％)
 - エ、道德教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して、道德教育、人権教育を推進する。
 - オ、在籍中に成人年齢を迎えることを踏まえて政治的教養を育む教育を推進する。
 - カ、グローバル化や情報化が加速度的に進展する中で、国際的共通語として中心的な語学力(英語)の育成に努める。また多様な価値観を持つ他者と共有力を育成する。
- 3 地域連携と広報活動の充実
 - ア、保護者面談や適宜の家庭訪問によって家庭との日常的な信頼関係を築くとともに、保護者メール等によって学校情報の確実な伝達をめざす。
 - イ、中学校教員対象説明会や中学校訪問により生徒情報を把握し指導に生かすとともに、平野区や子供相談センター等と連携し生徒の就学保障に努める。
 - ウ、ホームページの更新、オープンスクール等の充実、近隣の小中学校への出前授業の実施等により、学校の情報や魅力の発信に努める。
 - エ、広報プロジェクトチーム(KPT)を中心に中学校の教員、中学生、保護者や地域への効果的な広報活動を推進し、地域公開講座・PTAバザー等を継続して実施し、地域行事等への教職員と生徒の参加を積極的に進める。
 - *学校説明会・オープンスクールへの参加者を増やし、令和8年度には、700名をめざす。(R3：一名、R4：557名、R5：674名)
- 4 生徒を支える校内体制の充実
 - ア、首席連絡会や運営委員会、職員会議等の各種会議の連携を強化し、分掌・学年が情報を共有、協力して迅速に課題解決にあたることのできる体制を整える。
 - *学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価を増やし、令和8年度には70％にする。

(R3：53.7％、R4：46.8％、R5：42.1％)
 - イ、支援教育コーディネーターを軸にSC・SSWや支援教育サポート校等と教育相談・生徒支援委員会等との連携をはかり、生徒を組織的に支援する。
- *学校教育自己診断「教育相談に関する項目」の生徒肯定率を引き続き70％以上にする。(R3：73.3％、R4：74.9％、R5：77.3％)
- ウ、自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり(生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに)を全教職員が意識する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○「進路指導」「人権教育」「教育相談」については、すべての項目で生徒の肯定的回答割合は増加した。特に「進路指導」については、今年度は91.4％という高数値であり、本校の進路指導の丁寧かつ確な対応が生徒の満足度につながったと思われる。総合学科としてキャリア教育に力を入れてきたことも数値を上げた要因と思われる。 ○全体として 80％を超える項目が増えており、生徒が活動していく中で満足のいく教育活動をこれからも続けていきたい。 ○「生徒指導」については昨年よりも 0.6％減少しているので、生徒対応について、きめ細やかに整えていく必要がある。 ○「自主活動」については 3.4％上昇している。今後も部活動・生徒会活動をもっと活発にしていこうサポートしていく。 ○「教育相談」に関しては SC・SSW を活用した教育相談体制をとっており、保健室と教育相談委員会とも連携をとりながら、生徒一人ひとりの気持ちに寄り添い対応していくことで生徒の肯定率が 5.0％増加した。 ○「授業参観・学校行事への参加」 昨年度より 14％増加し 65.5％に到達した。数値は年々増加しており、保護者の学校に対する関心が年々高まっていることがわかる。これからも公開授業週間の実施や行事について保護者が参加しやすいようにしていく。 ○「全般」においては、4.3％減少したが、80％以上の数値を継続しており、保護者に「東住吉総合に入学させてよかった」とさらに感じてもらえるように、学校教育を充実させていく。 ○全体的に数値(保護者)が昨年度より 2.1％増加した。これからも学校として真摯に生徒と向き合い、保護者と連携をとることが一層必要である。 今後も教育活動に必要な情報については生徒・保護者へのスピーディな周知に努めることが必須である。また、教員、SC・SSW と連携しながら生徒の生活に寄り添ったかかわりを大切にしていき、生徒が自身の未来を明るいと考えることができるような学校運営をめざし工夫をしていく。生徒たちが課題や困難を解決していくために必要な能力を身につけながら、自身の未来に希望を持って進路実現していける学校を今後もめざしていく。	第1回(5/23) ○学校の状況について ・対話力を若い人はつけたほうがいいと思う。 ・高校生の自転車のマナーやスピードに注意せねば大変危ない。小学生や高齢者との事故が気になる。気を付けてほしい。 ・自転車の事故が多発している。ながら運転、並走禁止の指導等をお願いしたい。 ・子どもが東住吉総合高校に通い、楽しいと言ってくれることが一番だと思う。 ・将来を見据えて、今の学習と生活を結び付けてほしい。 第2回(10/31) ○学校の授業について（授業見学） ・少数での授業についての効果を理解、継続して取り組んでほしい。 ・授業見学中、机の上に余計な荷物がある事が気になった。授業に取り組む姿勢を整えてほしい。 第3回（2/20） ・部活動加入率が下がっていることに対しては、時代の移り変わりもあるかもしれない。 ・工夫をして授業をされている先生が多数いる印象である。昔とは違う。引き続き、工夫を重ねていってもらいたいと思う。 ・ほとんどの中学生が高校に入学するのが当たり前の時代。それを踏まえて高校もよりよい教育活動を考えていく必要がある。 ・どこの府立学校も苦しい状況だが、東総を希望する中学生が増えることを願う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現	(1) ア 3年間を通したキャリア教育を計画的に進め、生徒の自己実現を支援する	(1) ア・キャリア教育プログラムの取り組みを一層充実させ、生徒の進路意識の早期の向上に努める。 ・外部連携をはじめ地元企業などの外部人材と連携した、キャリア教育を実践し、進路指導を充実させる。	(1) ア・学校教育自己診断「進路指導関係」の項目生徒の肯定率 85%以上とする。 [90%] ・就職一次試験の内定率の80%以上を維持する。 [92%] ・進路未決定率を 1.0%以下維持。 [0.0%]	(1) ア・学校教育自己診断「進路指導関係」の項目生徒の肯定率 91% [○] ・就職一次試験の内定率 88% [○] ・進路未決定率 0.5%[○]
	イ インターンシップ及びボランティア活動の促進と実業教育の充実	イ・インターンシップ及び地域ボランティア活動へ参加し自己の進路実現に繋げる	イ・インターンシップ・地域ボランティア活動の学外活動参加者数 170 名以上 [166 名]	イ・インターンシップ・地域ボランティア活動の学外活動参加者数 151 名[△] 生徒数減が影響しているが、生徒への周知方法に工夫が必要
	ウ 進学指導の充実	ウ・様々な入試形態を視野に入れ、生徒に対する講習を充実させながら、進学指導を拡充させる。	ウ 中堅大学等合格者を含め、4年制大学合格者 60 名以上。 [59 名]	ウ 中堅大学等合格者を含め、4年制大学合格者 32 名[△] 生徒数減が影響している。英数系列の大学進学率は昨年度と比べ大きな変化はない。
	(2) ア 教育産業を活用したオンライン学習教材で基礎学力を向上させ進路自己実現に努める。	(2) ア・教育産業の基礎学力調査実施	(2) ア. 学校教育自己診断「学習指導」の項目生徒肯定率 80%以上を維持する。 [83%]	(2) ア. 学校教育自己診断「学習指導」の項目生徒肯定率 82%[○]
	イ SDGs の視点を踏まえての探究活動	イ・NPO や大学等の外部連携を進め、SDGs の視点を取り入れた探究活動を進める。	イ 「総合的な探究の時間」の発表会を年間 1 回実施する。	イ 「総合的な探究の時間」の発表会を実施。代表者が大阪府高等学校総合学科教育研究大会に参加

府立東住吉総合高等学校

	ウ ICT を活用した授業の推進 (3) ア 授業アンケートの有効活用 イ 資格取得の充実	ウ・教育産業による学習動画配信サービス等を活用し生徒の学習習慣の定着及びその分析を活用し、生徒の学力の経年変化を把握する。 ・ICT 機器を有効に活用して、教材の共有化をはかり、教材研究にかける時間の短縮を進める。また、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせるなど生徒の学びの深化をはかる。 ・年2回の公開授業週間などを活用し、教員相互で授業観察を行い、授業観察シートを提出する。 (3) ア 年2回の授業アンケートを実施し、授業見学をもとに授業改善に取り組む。 イ 多様な資格の情報を提供し、質の高い資格に挑戦させる。	ウ・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の項目生徒肯定率を引き続き 75%以上を維持する。 [84%] ・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員を引き続き 85%以上を維持する。 [90%] ・教員の相互授業観察件数引き続き 65 件以上 [65 件] (3) ア・学校教育自己診断「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」の項目教職員の肯定率 80%以上をめざす。 [66%] ・授業アンケートの平均値を引き続き 3.30 以上を維持する。 [3.39] イ・年間資格取得者数 180 名以上にする。 [211 名]	ウ・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の項目生徒肯定率 82% [○] ・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員 92%[◎] ・教員の相互授業観察件 78 件[◎] (3) ア・学校教育自己診断「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」の項目教職員の肯定率 77%[○] 80%を下回る結果となったが、R5 年度よりも向上した。 ・授業アンケートの平均値 3.37[○] R5 年度数値を下回る結果となったが、3.30 以上を引き続き上回った。 イ・年間資格取得者数 238 名[◎]
2 社会とつながる力の育成	ア 生徒指導部を中核とした指導体制の充実 イ 体育祭、文化祭実行委員会の活性化 ウ 部活動の活性化に向けた取り組み推進 エ 人権教育と道徳教育の推進 オ 政治的教養を育む教育の推進 カ 語学力（英語）の育成	ア 遅刻指導・服装指導は年間を通して計画的に実施する。 イ 体育祭・文化祭については生徒の主体性を喚起しつつ、地域への一般公開を実施する。 ・学校行事への生徒サポーターの参加を促進する。 ウ・部活動活性化プロジェクトチーム（BPT）を中心に、体験入部、部活動の活動や発表の「見える化」、運動部の中学生向け「東総カップ」、合同部活動・練習など、本校の部活動について検討し、部活動動画の充実を図る。 エ・道徳教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して多様な手法により人権ホームルーム等の充実をはかり、人間としての在り方生き方についての考えを広める。 オ 1 年次と社会科が協力して、授業を組み立て、平野区の選挙管理委員会との連携を図って実践する。 カ 英語技能検定の実施	ア・年間遅刻総数 2000 件未満[2578 件] ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的生活習慣について」の項目生徒肯定率 80%以上。 [83%] イ・文化祭、体育祭に関する生徒肯定率を引き続き 80 % 以上を維持する。 [81%] ウ・部活動加入率 50%以上 [39%] ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率 65%以上 [64%] エ「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率を引き続き 75 % 以上を維持する。 [85%] オ 選挙管理委員会との連携を年間 1 回以上実施 カ 英語技能検定受験者数 10 名以上	ア・年間遅刻総数 2896 件[△] 年間欠席総数は昨年度より減っているが、引き続き、生徒の生活習慣を整える取り組みを行う必要がある。 ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的生活習慣について」の項目生徒肯定率 80%[○] イ・文化祭、体育祭に関する生徒肯定率 88%[◎] ウ・部活動加入率 43%[△] ・学校教育自己診断「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率 63%[△] エ「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率 86%[◎] オ 選挙管理委員会との連携を実施 1 回[○] カ 英語技能検定受験者数 4 名 [△] 次年度は Base in Osaka を活用して生徒の英語運用能力をさらに向上させる。
3 地域連携と広報	ア 家庭との日常的な信頼関係をつくる イ 中高連携と関	ア 保護者メール等を活用し、授業参観、学校行事、PTA 行事等の保護者向けの情報の発信を迅速に行う。 イ・クラブ交流等を通して、地元の中学校との	ア 学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者肯定率 60%以上[52%] イ・クラブ交流等の回数	ア 学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者肯定率 66% [○] イ・クラブ交流等の回数 40 件[○]

府立東住吉総合高等学校

活動の充実	係機関との連携を強める	連携を促進する。 ・中学校教員への出前説明会を広める。 ・生徒主体の学校説明会、オープンスクールの充実。	を引き続き 35 件以上をめざす。[29 件] ・出前説明会を年間 2 回以上実施する。[3 回] ・生徒主体の学校説明会やオープンスクールを年 4 回実施する。[4 回]	・出前説明会を年間 3 回実施。[○] ・生徒主体の学校説明会やオープンスクールを年 4 回実施 [○]
	ウ 学校の情報や魅力の発信	ウ ホームページによる学校の魅力の発信。	ウ 学校説明会等参加者を引き続き 650 名以上をめざす。 [参加者延べ 674 名]	ウ 学校説明会等参加者 660 名[○]
	エ 地域連携の充実	エ・地元地域活動協議会と情報を共有する。 ・地元区との連携事業及び意見交換会。 ・近隣小学校サマーキャンプ、地域公開講座、産業教育フェア等へ生徒を参画させ、PTA 活動等とともに地域連携を積極的に支援する。	エ 学校教育自己診断「地域連携」の項目教職員肯定率 85%以上維持。 [87%]	エ 学校教育自己診断「地域連携」の項目教職員肯定率 79%[△]
4 生徒を支える校内体制の充実	ア 情報の共有化、見える化 ・労働安全衛生管理体制の充実 ・働き方改革	ア・首席会議、年次主任会、分掌会議を定例化し、分掌業務において、分掌主導で情報を共有し年次間でそろえた指導をおこなう。 ・特定の教職員に過度な負担がかからないよう外部人材や外部機関を有効に活用し、組織的に対応する。 ・全校一斉定時退庁日の設定 ・グループウェア等を活用した「校務運営の効率化」	ア 学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員肯定率 60%以上。 [42%] ・時間外勤務月 45 時間以上の割合を昨年度より減らす。[18.3%]	ア 学校教育自己診断「各文章や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員工程率 37%[△] 次年度は、学年団会議や分掌会議を定期的に行うことを決め、教員同士の情報共有の機会を複数会も受けて連携を強化する。 ・時間外勤務月 45 時間以上の割合 15.2% [○]
	イ 教育相談体制の充実と各種会議との連携	イ・高校生活支援カードを活用し、SC と連携した月 1 回の教育相談・生徒支援委員会により生徒を支援する。 ・貧困、虐待、ヤングケアラー等の生徒の状況について教職員が理解を深め、SSW 等の外部機関と連携し組織的に生徒を支援する。 ・配慮を要する生徒の対応については支援教育サポート校と連携し組織的に対応する。	イ・中退率 1.0%以下。 [8 名、1.2%] ・教育相談に関する生徒肯定率を引き続き 70%以上に維持する。[77%]	イ・中退率 30 名、4.7% [△] 次年度は、教育相談体制をブラッシュアップし、生徒支援をさらに強化する。 ・学校教育自己診断の教育相談に関する生徒肯定率 82%[◎]
	ウ 教員力の強化	ウ・自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり(生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに)を全教職員が意識する。 ・経験年数の少ない教員の教師力を高めるために、教務・進路・生徒指導研修やクラスづくり研修等を実施し、教員の資質の向上を図る。 ・初任者育成チームを結成し、チームで育成する。 ・学力向上プロジェクトチーム (GPT) 等による主体的な研修を計画的に行う。	ウ「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の項目の教職員肯定率 70%以上。 [61%] ・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」の項目教職員肯定率を引き続き 60%以上に維持する。[58%]	ウ「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の項目の教職員肯定率 67%[△] 学年や小集団での教育活動には信頼関係に基づく協力体制がある。引き続き、学校組織全体での協力体制を構築していく。 ・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」の項目教職員肯定率 71%[◎]